

実践事例 5

集団活動を苦手とする生徒に対する授業の目標の再設定と学習機会の保障			
キーワード	音楽、集団活動が苦手、授業目標の再設定、学習機会の保障、face time 遠隔授業		
学年 領域・教科	中学部2年 音楽	単 元 名	フォークダンスをしよう(歌唱む)
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・face time		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・端末間でテレビ電話のように(ビデオチャット)、相手を見ながら会話ができる。 ・そのため、企業等でもテレビ会議システムとして導入している事例がある。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりする。 		
ICT活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・場面緘黙で、かつ、集団での活動を苦手としている生徒が対象である。 ・一緒に学習する予定の生徒は、「リズムに合わせて、フォークダンスを踊る」ことを目標としていたが、対象児童は、「フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりする」と変更した。 ・フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりすることができるように、別室で他の中学部生が行っている歌唱やフォークダンスの様子をface timeで中継し、視聴できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① iPadを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を苦手としているため。音楽に入ることができない。 ・音楽室に入ったとしても、フォークダンスに加わることはできない。 ② iPad使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・iPadを注視し、他の生徒の歌唱やフォークダンスの曲を聞いていた。 ・他の生徒がダンスをしている様子を興味をもって見ていた。 ・face timeの利用により、学習の機会を保障でき、「いろいろな音楽に関心をもって聞く」という再設定した目標を達成することができた。 			